

## 2. 【研究 A】知的障害特別支援学級担当者サポートキットの作成

### 2.1 研究 A の目的

研究 A では、後述する研究 B の知見を加味しながら、経験の浅い知的障害特別支援学級担当者を対象とした、「知的障害特別支援学級担当者サポートキット」の試作版の開発を行う。

本研究では、研究 B の事例研究や、研究 C の知的障害特別支援学級担当教員を対象とするモニター調査の知見を加味しながら、特別支援教育の担当経験の浅い教員の授業づくりを支援する「知的障害特別支援学級担当者サポートキット」(以下、サポートキットと略す)の開発を行う。

### 2.2 サポートキット開発のコンセプト

サポートキットの開発に当たり、以下のようなコンセプトを設定した。

- ・ 新学習指導要領に対応。
- ・ 初心者が使えるもの。
- ・ 学習評価を含む授業づくりの PDCA をガイドするもの。これにより、教育課程の理解も深める。
- ・ チームとして中堅・ベテラン教師や管理職と共に指導計画の作成や教育課程編成を行う際に参考資料として活用できるもの。
- ・ 既存の教育委員会作成のハンドブック等を補完、補強するもの。

また、内容物として、以下のような物から構成することを研究当初計画した。

- ・ 教育課程の解説
- ・ 児童の実態把握、目標設定、授業、学習評価までの一連の流れが分かる事例の提示とポイント解説
- ・ 研修動画リスト
- ・ 教材例の写真

- ・ 教室レイアウトの写真
- ・ 役立つ HP へのリンク
- ・ 役立つ資料リスト
- ・ 様式ファイル など

## 2.3 研究 A の方法

### 2.3.1 研究の手続き

まず、授業づくりや学習評価に関する先行研究の知見と、後述する研究 B において検討する授業づくりのポイントに関する事例研究で得られた知見を加味して、知的障害特別支援学級担当者サポートキットの試作版（第 1 版と第 2 版）の作成を行った。

方法としては、原則週 1 回の研究分担者による協議や、年 2 回開催した研究協議会における協議、さらに、知的障害教育を専門とする文部科学省特別支援教育調査官や研究協力者との協議により知的障害特別支援学級における授業づくりの PDCA について検討を行った。また、協議の際には「2.2 サポートキット開発のコンセプト」を念頭に、サポートキットに掲載する内容の精選も行った。

上記のような検討プロセスにより、知的障害特別支援学級における授業づくりの PDCA の基本的な骨子について検討を重ねるとともに、月 1 回程度の頻度で、委託研究受託者とも協議を行い、この授業づくりの PDCA を研究 B の事例研究に反映できるかどうかの協議と調整を行った。

試作第 1 版は、第 2 回目の研究協議会において協議を行い、その結果を受けて 1 年目の年度末には、試作第 2 版を作成した。

## 2.4 研究 A の結果及び考察

### 2.4.1 サポートキット（冊子）試作第 1 版について

研究分担者及び委託研究受託者との協議に基づき、研究 1 年目の 10 月末にサポートキット（冊子）試作第 1 版を完成させた。授業づくりに焦点化した内容に絞りつつ、授業づくりに関わる最低限かつ基本的で重要な教育課程編成に関する解説を内容に含めた。また、原稿の掲載順を、理論からではなく、事例から掲載することで、経験の浅い教員に気軽に手にとってもらい、読み進めてもらえると考えた。試作第 1 版のサポートキット（冊子）の目次は、表 2-4-1 に示した通りであった。

表 2-4-1 サポートキット（冊子）試作第 1 版の目次

---

タイトル 『知的障害特別支援学級担当者サポートキット(小学校編)』

目次

はじめに

■実践編■

1. 知的障害のある子どもへの指導にあたってのイロハ
2. 授業づくりのポイントの解説
3. 学習評価の解説
4. 国語科の解説
  - 4.1. 国語科の内容を指導する際のポイント
  - 4.2. 事例 A
  - 4.3. 事例 B
5. 算数・数学科の解説
  - 5.1. 算数・数学科の内容を指導する際のポイント
  - 5.2. 事例 A
  - 5.3. 事例 B

■理論編■

6. 教育課程の解説

■まとめ

7. まとめ、中学校への活用などの解説

■資料編

8. 教材例リスト
  9. 情報リソースリスト作成(教セハンドブックなど)
  10. 動画リソース作成
- 

この試作第 1 版について、研究分担者及び委託研究受託者、研究協力機関並びに、研究協力者が参加する研究協議会において検討を行ったところ、以下のような意見が出された。

- サポートキット（冊子）の内容骨子（表 2-4-1 参照）についておおむね賛同を得られた。
- 学習評価における評価基準のうち、評価基準 A や評価基準 C を立てるのが難しいとの意見が研究協力校より出された。
- 授業づくりサポートシートとその記入例（図 2-4-1 を参照）を作成し、活用した結果、毎時間記入するのは大変だが、授業づくりに役立つとの意見を研究協力校より得られた。
- 理論編からでなく、事例編から始める文章構成はよい。さらに、文章レイアウトやイラストや写真の採用など、経験の浅い教員への見せ方や、手にとって読みたくなる工夫が必要（基本的な内容の精選と、文章量への配慮が必要）。
- 教材だけでなく、教室環境を含めてどのような配置で教材教具が活用されているのかの情報もあるとよい。

## 2.4.2 サポートキット（冊子）試作第2版について

研究協議会において研究協力機関並びに、研究協力者より出された意見を基に、更に検討を行い、試作第2版を作成した。

試作第2版では、イラストや写真を多用して、事例紹介や理論解説の原稿を作成した。また、カラー刷りを採用し、ポイント部分をカラーで枠囲いにするなど、手に取りたくなるデザインであり、大事なポイントが視覚的にパッと目に飛び込むデザインとなるよう配慮した。また、各章のタイトルを口語的な表現とし、親しみやすいものとなるようにした。さらに、事例紹介については、別冊綴じとし、実践編や理論編の解説文章と対照しながら読み進められる工夫を施した。

内容面では、試作第1版では実践編に配置していた「学習評価の解説」は、学習指導要領の解説も含まれるので、理論編に配置するのが適切であると判断し、試作第2版では「学習評価の基本的理解」というタイトルにして理論編へ移動させた。

表2-4-2に試作第2版のサポートキット（冊子）の目次を示した。

表2-4-2 サポートキット（冊子）試作第2版の目次

---

タイトル 『知的障害特別支援学級担当者サポートキット(小学校編)』

もくじ

はじめに

**第1章 これだけは知っておきたい！実践編**

知的障害のある児童への指導のいろは

知的障害のある児童を支える「国語科」指導のコツ

知的障害のある児童を支える「算数科」指導のコツ

授業づくりの流れとポイント解説

**第2章 もっと知りたい！理論編**

教育課程の編成

学習評価の基本的理解

**第3章 これだけは知っておきたい！実践編**

環境整備、教材教具の工夫

Webにある役立つ情報（各種資料、研修動画など）

参考文献

**【別冊】事例でわかる！NISE 授業づくりサポートシート**

NISE 授業づくりサポートシートの使い方

NISE 授業づくりサポートシート（国語科）

NISE 授業づくりサポートシート（算数科）

---

## NISE 授業づくりサポートシート

### I 指導案づくり

#### 1 指導体制

授業者 職・氏名

(T1)

(S1)

(S2)

#### 2 前時までの子ども実態や単元設定の理由など

##### ①前時までの子ども実態

- ・本学級は、知的特別支援学級であり2年から6年生までの7人が在籍しており実態は様々である。
- ・実際に体験しながら行う学習には興味関心が高まりやすく、集中して学習に取り組む姿勢が見られる。
- ・本を読むことが好きな児童が多いが、目的意識をもって文章を読み内容を読み取る児童が少ない。

##### ②単元設定の理由

- ・説明書のように、目的意識をもって文章を読み内容を読み取ることは生活の中で多く機会が生じ、実生活でも必要とされる能力であると考えられる。
- ・きつつきは説明文を体験しながら学ぶことに適切であり、通常学級の実践を参考にしながら授業を行うことができる。

##### ③年間指導計画における位置付け

・

→以上の①、②、③に挙げたことより、単元「きつつき」を設定した。

**★学習指導要領との対応（どの指導要領のどの指導内容とたいおうしているかを書きます。）**

（例文：本単元のものではありません）

本単元の内容・目標は、特別支援学校小学部・中学部学習指導要領の内容から、小学部国語科の以下に關するものと対応している。

2 段階ア（イ）日常生活でよく使われているひらがなを讀むこと

3 段階ア（オ）文の中における主語と述語との関係や助詞の使い方により、意味が変わることを知ること。

[思考力、判断力、表現力等]

3 段階 C 讀むこと 登場人物になったつもりで、音読したり演じたりすること。（オ）文の中における主語と述語との関係や助詞の使い方により、意味が変わることを知ること。

#### ④基本的な指導・支援方針

- ・学習の意欲を高めながら、学級全体で学習を行う。言語活動や作業などの課題は個々の発達段階に応じて個別に設定していく。

#### 3 単元名

きつつき（ひろがることば 小学校国語2下 教育出版）

#### 4 単元の目標

- きつつきの内容を読んで、作成するのに必要な材料や、作り方の手順や気を付けることなどを読み取る。（思考、判断、表現 C 読むこと（1）ア1、2年）
- おもちゃ作りを通して、説明書などの文章の共通点について知る。（知識及び技能（2）ア1、2年）
- きつつきやおもちゃの作り方について順番に気を付けて読んだり、まとめたりしようとする。（学びに向かう力、人間性等）

#### 5 単元の評価基準

知識及び技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
・順番を表す言葉を文章の中から見つける。 ・順番を表す言葉や記号を使って、説明する。	・きつつきを作るために必要なものの手順を理解している ・きつつきを作る中で気を付けることを答えることができる。 ・文章を読みながら、きつつきのおもちゃを作ることができる。	・自分できつつきやおもちゃの作り方について順番に気を付けて読んだり、まとめたりしようとする。

#### 6 児童の実態と目標

児童	個別の指導計画（抜粋）		本単元目標（個人毎に3レベル立てる）／評価規準・基準		
	長期目標	短期目標	知・技	思・判・表	主体的
A			A: B: (到達目標のレベル) C:	A: B: (到達目標のレベル) C:	A: B: (到達目標のレベル) C:
B					
C					
D					
E					
F					
G					

#### 7 教材についてのメモ

- ・児童の実態に合わせ3種類のプリントまたはipadを用意。

#### 8 単元計画

	学習内容・学習活動	重点目標の評価基準	評価方法
1	学習計画を確認しよう		
2	どんな順番で作るのか確認しよう		
3	必要な材料は何だろう		
4	コイルばねを作るときの順番やポイント		

図 2-4-1 NISE 授業づくりサポートシートとその記入例(つづき)

	トは何だろう		
5	コイルばね、きつつきのとりつける順番、ポイントは何だろう		
6	きつつきらしいうごきとちようちのうごきはどこが違うか考えよう		
7 ～ 10	順番を表す言葉を使って様々なものの作り方を説明してみよう。	○指導のポイント ☆必要な支援 □評価方法 【】評価規準	
11 ～ 15	説明を聞いて実際に作れるか試してみよう		

9 本単元と他教科等との関連

・  
・

10 本時

(1) 本時の目標

- ・ 順番を表す言葉を使って、作り方の説明をする(知・技)

(2) 単元に関する児童の実態と本時における各児童の目標

	児童の実態	本時の目標／評価規準・基準	指導の手立て・配慮
A	学年の教科書の文章を使用して個別で読む学習を行っている。教科書の内容の簡単な部分は読み取ることができるが、重要な部分のみを抜き出すことは難しい。	A: B:(到達目標のレベル) C:	・
B	第2学年上の教科書の文章を使用して個別で読む学習を行っている。読むことに苦手意識を持っており、学習に気持ちが乗らないことがあるが、体験型や目標がはっきりしている学習には進んで取り組むことができる。		
C	第2学年下の教科書の文章を使用して個別で読む学習を行っている。読むことが好きで、自分の言葉で内容を説明することができる。自分なりに解釈することもありポイントがずれてしまうこともある。		

D	第1学年下の教科書の文章を使用して個別で読む学習を行っている。読みは既知の単語であれば読むことができるが、逐次読みになることが多く教師がヒントを出しながら一緒に読むことで内容を読み取ることができる。		
E	第2学年下の教科書の文章を使用して個別で読む学習を行っている。日常使われる言葉の文章は読めるが、昔話など日常使用する言葉と違う文章になると語彙の少なさから読み取りが難しくなる。		
F	第2学年下の教科書の文章を使用して個別で読む学習を行っている。初めて読む文章では、逐次読みになることが多く、読めない字があったりわからない単語があると詰まってしまうことがある。		
G	絵本の読み聞かせなどで読む学習を行っている。絵本に顔を向けて聞くことができている。気に入った絵などを指さしたり、じっと見つめたりする様子が見られる。		

(3) 本時(月日校時)の展開

時刻(時配)	学習活動(※予想される児童の反応)	○支援と留意点 □評価方法 【】評価規準	□評価方法 【】評価規準/教材・教具
5	・ 目直があいさつをする ・ 前時までの学習を今日の学習内容を確認する。	○姿勢の崩れている児童には言葉かけする。 ○A児は1回のみ言葉かけ(繰り返しすと逆効果のため)	・ 姿勢の確認掲示 ・ 学習計画表 ・ 学習掲示物
	・ 教科書を音読する ・ 順番を表す言葉を文章の中から見つける。		□発言・プリントの記述内容 【知・技】

図 2-4-1 NISE 授業づくりサポートシートとその記入例(つづき)

- (4) 場面設定・教材など  
 ・学習プリントなどは実物を別紙添付する。

**II 指導後のふりかえりシート**

1 学習評価

	本時の目標／評価規準・基準	学習評価	児童の様子（全て書かず、空欄でもよい）	次時の目標についてのメモ（変更の有無など）
A	A ; B : (到達目標のレベル) C ;	.		
B				
C				
D				
E				
F				
G				

2 授業の評価

- ・（箇条書きで、簡単に今日の授業についてのふりかえりと、次時へどのように展開していくか、変更点はないかなどをメモする）  
 .  
 .